

# 製品表示は大切な情報源

当センターに寄せられる相談の中には、製品に書いてある注意表示を守っていれば事故を防げたと思われる案件も数多くあります。塩素系洗剤や酸性タイプの洗剤の製品容器には、「まぜるな危険」表示が書かれています。防水スプレーにも「注意；吸い込むと有害。必ず屋外で使用」と表示が書かれています。

どちらの製品も、表示があるにもかかわらず、それを守らずに使用され、事故に遭っています。使用した消費者の背景には、次のようなユーザー心理があります。

◆**使い方の分かった製品の注意表示は気にしない。**

初めて使う製品で、使用方法が良く分からない場合には、製品表示をじっくり読みます。しかし、使い方が分かった製品では、すぐに使いたい気持ちからわざわざ製品表示を見ることはしません。

◆**表示は目には入っているが、自分は大丈夫という過信から、行動に反映されない。**

『一般家庭用に売られている製品に、危険なものがあるはずがない。』『万が一のことが書いてあるのだろうが、普通は起こらない』といった心理学の認知バイアスの一

## まぜるな危険 塩素系

【塩素系製品の警告表示】

注意

吸い込むと有害  
必ず屋外で使用

【防水スプレーの警告表示】

つである正常性バイアスが働くためです。また、製品表示を読もうとしても、多くのことが小さな字でギッシリ書かれていて、読みにくいという、ユーザーとしてはどうすることもできない事情もあります。

### ■シグナルワードに注目する

製品の表示には、製品情報（品名、用途、液性、成分、材質等）、使い方情報（使い方、使えないもの、使用量等）、安全性情報（使用上の注意、応急処置等）があり、さまざまな情報が記載されています。この中で、重篤な事故を防ぐために特に注意喚起を促す目的で表示されるものを「警告表示」といいます。警告表示には必ずシグナルワードが入っています。それが「危険」、「警告」、「注意」の3つの言葉です。そして、危険>警告>注意の順に、守らなかった場合に受ける可能性のある被害の大きさが変わってきます。シグナルワードの

後には、簡潔な文章で、危険の種類、想定される結果、回避方法などが掲載されています。「危険」、「警告」、「注意」ではじまるメッセージは、その製品を安全に使うためにとても重要なことが書かれていると認識してください。

### ■ 図記号に注目する

事故防止のために重要な事柄は、誰もが一目でわかる図記号で表示される場合があります。製品の限られた表示スペースに効率良く分かりやすく表示ができ、日本語が読めなくても意味がわかるなどの利点があり、近年多用されるようになってきました。

図記号は、かつてはそれぞれの製品で独自のものが使われていましたが、JISなどの標準規格でルールが決められ、このルールに則ったものが多くなりました。大きく分けると、してはいけないことを示す「禁止マーク」、注意することを示す「注意マーク」、必ず行う(守る)ことを示す「指示マーク」があり、この中に内容を示すピクトグ



ラム(絵文字)が入ります。

### ■ 製品表示は大切な情報源

製品は内容液と容器を合わせて品質、性能、安全性が設計されています。容器の材質、強度、機能性などが慎重に検討され、使用時だけでなく保管時にも安全が保たれるように設計されています。そして、容器には用途、使い方、成分、使用上の注意、応急処置など、その製品にとって重要な情報が表示されています。製品を専用容器以外に移し替えて使用することは、思わぬ事故につながることもあり危険です。使うのは内容液だからといって、専用容器以外へ移し替えて使用することは危険を伴うため“厳禁”です。

製品表示、特に安全な使用にかかわるものはしっかりと読んでから使用するのが望ましいことは言うまでもありません。一方、字が小さく読みにくいことも否めません。見るべきポイントを抑えて、製品表示を大切な情報源と捉えて賢く使いこなしましょう。

